

平成 26 年 11 月 15 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中齋塾 北関東フォーラム

平成 26 年度第 9 回

教育

今日のテーマは教育です。日本の大学は今、4割が赤字経営です。予備校も含めて受験業界は経営難に喘いでおり、代々木ゼミナールのような大手予備校もかなり規模を縮小しました。かつて文科省がどんどん新しい大学や学部の創設を認めたので、水膨れ状態になっています。赤字になるのも当たり前のことだと思います。

一方、日本の若い人たちの能力は以前より落ちていて、どうにもならない状況にきています。文科省は日本の大学が外国の大学と業務提携を進めるための予算をつける等、教育レベルを上げようと講じています。一方、日本の大学も、各国の大学と業務提携をして良質の留学生を確保しようと生き残りに必死になっています。

皆さんにご紹介するのは、二松学舎大学の理事長が編集した『今、なぜ「大学改革」か?——私立大学戦略経営の必要性』という本です。GDPと大学入学者の数とを対比した表があったり、かなり辛辣な提言も入っていますが、オブラートに包んで書いてありますから読みやすい本です。

同じく二松学舎大学の国際政治経済学部が編集した『都心で学ぼうⅡ——体験的国際政治経済』をご紹介します。その中に、モンゴルから二松学舎大学に留学し、帰国してモンゴルで官僚になった青年の投稿がありましたので、コピーをして資料にお付けしてあります。

もう一冊をご紹介します。10月27日から中齋塾フォーラムメンバー6名でモンゴルに行って参りました。我々を迎えてくれた新モンゴル高等学校と、そこを母体にして出来た大学の理事長が書かれた本です。理事長は日本の東北大学で勉強をされたのですが、最初は日本政府の奨学金を貰っていたけれども、奨学金が打ち切られた後はアルバイトを3つ掛け持ちして、家族を養いながら学生生活を送ったと書かれていました。苦学して日本の大学を出て、モンゴルで高校・大学の創設をされたわけですから、そういう経験があるからこそ、「足るを知る」という考え方に共鳴して、ぜひ自分達の高校・大学で話をして欲しいということで話が進んだという経緯も納得できました。

実際にお会いしてみると教育に対する熱い情熱を持っておられ、これからモンゴルをどうやって成長発展させていくか、それには日本式の教育を取り入れることだと信じておられ、我々も応援をしたいと感じました。理事長にどういう目的で大学を創ったのか、学生にどういうことを望むかと確認したところ、「国際的に通用する人材を作りたい」という回答でした。

講義の中で学生（創立して間もないので1年生しかいませんでした）に質問をしました。「国際的に通用する実力を現在持っていますか」という質問に対して、2人の学生が手を挙げました。更に、「国際的に通用する実力を身に付けたいと願っていますか」と質問すると、ほとんどの学生がパッと手を挙げました。

モンゴルから帰って来た翌々日、二松学舎大学のホームカミングデーに行きましたので、二松学舎の学生に同じ質問をしたところ、皆、きょんとした顔をしていました。やはり意欲が違いますね。ぬるま湯に浸かった国と、新興国でこれから発展させていこうという国では、大人の意欲が違って、それが子供に伝わっていくのだと思います。

ちなみに二松学舎大学で外国人留学生の受入れを担当されている方に伺いますと、モンゴルの学生が日本に留学する方法は五つあるそうです。一つは私費留学で、家族や親族からお金を集め日本に来て、大学や日本語学校に入って勉強するスタイル。二つめは日本政府の奨学金を貰って留学するというスタイルで、1ヶ月14万円くらいの助成があるそうです。三つ目はモンゴル政府が奨学金を出して日本に来るスタイルです。金額は分かりませんが、日本の奨学金よりはるかに少ないようです。四つ目はモンゴルで日本の大学を受験し、合格してから留学の手続きを取るスタイル。既にウランバートルでも日本の受験業界の会社が乗り込んでいて、現地でレベルの高い学生を集めて受験させているだろうと言っていました。五つ目は相撲留学です。新関脇の逸ノ城は、ご存知のように鳥取の高校に留学していました。相撲の実力がある子供は、高校生のうちから日本に留学してくるようです。今、相撲の番付表を見ると、幕内の半分近くはモンゴル出身です。

また、二松学舎大学の卒業生で日本語教師として外国に派遣された方にも話を聞きました。国を選ばず、どの国でもよいから行きたいと手を挙げた人は、日本語教師として優先的に送り出されるようです。その方はギリシャに3年間行っていたそうですが、国内での給料は保証されて、尚且つギリシャの生活費も文科省が出してくれるそうです。二重にお給料を貰えるから、人によってはそれなりの蓄えが出来ると言っていました。渡航費も出して、現地の引越し費用も負担してくれるというのですから、日本という国は至れり尽くせりの裕福な国だと感じます。

先ほどお話したモンゴル高校の理事長は、日本でロータリークラブの奨学金も貰っていて、3つのアルバイトよりも金額が高かったと言っておられました。日本の制度は至れり尽くせりで、本当に良いものがあるようです。ただ、今その重みに耐えかねて悲鳴を上げている状況だという感じが致します。

先程の岡本代表幹事の挨拶は、離職率の高さ、仕事への適応障害・社会への適応障害の人が増えているという話をされました。シムックスも毎年30名程度の新卒を採用しますが、一年経つか経たないうちに5~6名、酷い時には10名くらいは辞めてしまうのです。何とか定着させようと、今はあの手この手、おんぶに抱っこで面倒をみなければなりません。社会人としての基本的なものの考え方・行動を、学校では教えていないからです。ですから対応策として、3ヶ月くらい社会人としての身の処し方を手取り足取り座学等で教えて、何とか辞めないで仕事に就かせるという状況です。岡本さんが講演を聞かれたというキャリア倶楽部の方は、そういう問題点をフォローしてくれるのでしょうか。

いずれにしても学校が社会人としての適応力を身に付けさせないまま社会に送り出していることで、犠牲になっているのは学生です。ここでも教育の問題点が浮き彫りになっていると感じました。

では、恒例の質問に参ります。

○ 今月、嘘をつかなかった方

みなさん手が挙がりました。嘘をつかないと、朝、気持ちが良いと思います。安倍さんは氣の毒ですね。今朝の読売新聞には「14日に投票決定」とありました。上毛新聞には「14日が有力」とあり、日経新聞はもう決定していると、当たり前のようにさらっと書いてありました。情報の流し方がそれぞれ新聞によって違うものだと思います。総理大臣は嘘をついても構わないという不文律があっても、心の中は苦しいでしょうね。ただ、思ったほど安倍さんの人相は悪くなっていないので、心に咎める気持ちが湧いて来ないのでしょうか。

○ 今月に入って、比較的良い日が続いたと思う方

良い日が続くと、良い循環が続きます。

○ 今月に入って、有難うと言ひ、有難うと言われることが多かった方

○ 今月に入って、健康法をずっとやっておられる方

私は今、色々な所で健康法を教わっています。その一つ、高齢者向けのストレッチを教えて戴いています。ただ筋肉を伸ばす年配者向けのストレッチですが、今まで私が覚えて

いたのとはまるで違う筋肉の動かし方を教えてくれるので、毎回参加しています。

○ 明日を過去形でイメージ出来ている方

教育 一論語から一

では論語の解説に参ります。本日の論語は子路篇七～九です。

【七】子曰く、魯衛の政は兄弟なり。

孔子が言うには、魯と衛の政治は、兄弟のようなものだったと言います。

魯の国の君主周公と衛の君主康叔は兄弟でした。兄弟が創めたそれぞれの国は、後半二国とも政情が悪化しました。孔子は魯の国も十分承知しているし、衛の国も10年いましてから大体こんなものだと承知しています。出だしが同じだと後半も同じように辿るのだなあと孔子がため息をついています。

ですからここは良いスタートを切りましょうとお読みください。途中でどこかおかしくなってきたなら、それを見究める眼を持たなければならないと孔子が自戒しているように見えます。

会社に置きかえて考えて下さい。カリスマ的な創業者がいると、創業の頃は順調に行くのです。創業者が辞めて、二代目が順調に受け継いでも、三代目の頃になると、だんだんおかしくなる。おかしくなった時には、創業者の考え方はまるで無くなっています。創業者の考え方が伝わらなくなった時は、その会社はお終いだと思っています。

日本という国はおもしろい国で、長く続く長寿企業は良いという考え方があります。ですから創業者の考え方を繰り返し確認する作業をしています。国としても出雲大社が60年、伊勢神宮が20年毎の遷宮、春日大社の20年毎の造替があります。ですから20年に一度、60年に一度、創業の考え方や技術をきちんと伝える仕組みを基本的には持っている。これは知らず知らずの間に国民にも伝わっているのだと思います。

翻って、自分が会社の経営や政治の場で活躍するなかで、創業の考え方、初心を時々見直しをするとよろしいでしょう。

【八】子衛の公子 荊を謂う。善く室に居る。始めて有るときに曰く、苟かも合うと。少しく有るときに曰く、苟かも完しと。富んに有るときに曰く、苟かも美しと。

この頃、孔子が55歳、荊は70歳を過ぎている老人です。

孔子がお年を召した荊について批評をしました。荊はよく家を治めた。わずかに家産が

出来た時には、ほっとしたと言った。少し貯まった時は、何とか整ったと言った。沢山蓄えが出来た時は、これ以上はないと言った。

いつも足るを知っていて、もっともつとを言わなかったと孔子が褒めたたえています。

「始めて有るときに曰く・・・」新婚さんが生活を始めて、少しの家財道具が揃った時に、「よかった、テーブルでご飯が食べられる」と満足している状況です。これを「足るを知る」と言うのです。「少しく有るときに曰く・・・」家財道具が揃って、何とかお給料で食べられる状況の時には、満足だと言う。「富んに有るときに曰く・・・」家財道具も貯えも出来てくると、これで十分だ、これ以上は要らないと言う。この時には、人相も家相も良くなっている状況です。

新婚の頃は必死に稼いで、10年20年経って家財が出来ると、良かったなあとほっとして、50年も連れ添えば良い人相になり、家もそれなりに立派になってくる。ただそれから先は、認知症に気を付けなければいけませんね。自分自身が認知症になった時の心構えも必要だろうと、最近思うようになりました。孔子の時代はそこら辺までは書いてありませんが、付け加えておきます。

論語は現代に置きかえる、わが身に置きかえて考えることが必要です。20代の頃はどうか、40代、50代はどうか、今現在はどうか・・・どうぞお考え戴きたいと思います。ここの部分は、<もっと、もっと>ではない、<ああ良かったな>とお考えください。「知足」は、ああよかったなと思うところが一番大事です。

【九】子^し 衛^{えい}に^ゆ適^{ぜんゆう}く。冉^{ぼく}有^し 僕^したり。子^し曰^{いわ}く、庶^おいかなと。冉^{ぜんゆう}有^{いわ}曰^すく、既^おに^す庶^おし、又^{また}何^{なに}をか^{くわ}加^いえんと。曰^{いわ}く、之^{これ}を^と富^いまさんと。曰^{いわ}く、既^すに^と富^{また}めり、又^{また}何^{なに}をか^{くわ}加^いえんと。曰^{いわ}く、之^{これ}を^お教^しえんと。

孔子が55歳の頃、弟子の冉有は26歳の若者です。孔子が衛の国に行った時、冉有が御者としてお供した時の問答です。

冉有は政治の素質が非常にあるお弟子さんです。孔子のもとには、良い所に就職したいという若者が集まり孔子塾のようなものが出来ていて、孔子が推薦すると国のしかるべき役職に就くことが出来ました。孔子のところに集まって勉強するという事は、政治家としての研鑽を積みたいという事ですから、先程の岡本代表幹事の話にあったキャリア倶楽部の一步先を行くような活動を孔子はしていたとお考えください。冉有はそういうキャリアを積みたいわけです。

孔子が「国民が何と多いことか」と言いました。

冉有が「これだけ多い国民に、先生なら更に何をされますか」と聞きました。

孔子が「国民の生活を安定させるように為政者は考えるべきだ。お前がそれなりのポストに就いたなら、国民をもう少し富ませるような政策をきなさい」と答えました。

アベノミクスで言えば、今、安倍さんがデフレからの脱却でインフレ2%を目標に一所懸命やっています。何のことはない、国民が豊かに暮らせるようにしたい・安定した生活を実感できるようにしたいというのと同じ話です。

更に冉有が「もし国民の生活が十分安定したなら、その上に何をすればよいのでしょうか」と聞きました。

孔子が、「これからは教育しかない」と教えました。

孔子は相手を見ながら教えています。冉有に対して、相当期待をかけている事が伝わってきます。

孔子と冉有の問答。ここでのテーマは教育です。恐るべき実例として、渋澤栄一さんが『論語講義』の中でこう解説をしています。

青年少女諸君もよく思うべし。社会の秩序確立し、安寧肅保せられてこそ人々の自由も得られ、個々の享楽も遂げられる、もし一朝所有権を打破し、人の階級を打破し去らば、人々職業に勉めず、鈍栗の背くらべ、治まりがつかず、衣食住の欠乏をきたし、老者幼者は餓死するほかなし。なおはなはだしくなれば弱肉強食、享楽どころか、四苦八苦の患難に陥らんとす。この恐るべき実例は、今現に北隣ロシアにあり。人為の飢饉到来は、実にこの世からなる餓鬼道なり。幸福に栄達しつつある良民を率いて、餓鬼道に赴かんとする社会主義、もしくは無政府主義者こそ無分別至極の悪魔なれ。

この悪魔を退治するが、すなわち教育の本意なり。

ロシアは社会主義で公平だと云うけれども、上の人間だけがたらふく食っている。公平だと云うにもかかわらず、国民の大多数は餓えて死んでいる。どうしてこうなるかという、教育がきちんとされていないからだ・・・と、悪魔という言い方をしていますから強烈ですね。ひっくり返して、日本はこうなつてはいけないということを、渋澤栄一さんがこの論語の部分で解説しています。

教育に関して、時事評論とあわせてお話しします。

最近ノーベル賞を受賞したお一人の先生が言われた話が、非常に印象に残りました。「ノーベル賞を貰えるだけの能力は自分にはそんなにない。けれども研究をずっと続けたこ

とによって貰えるようなところまで来たのだらうと思う。その継続させた力は怒りだ」と言っておられました。その怒りとは、自分自身の研究を認めない日本の国に対しての失望感、立腹が続けさせたのだと感じました。

我々に置きかえて考えると、何かをしたいと思ったなら、ずっと思い続けることです。思い続ければ、行動に移ります。そして情報がどんどん入って来ます。入った情報が臨界点を超えると、はっと閃くのです。

例えば、日清食品の創業者である安藤百福さんがカップヌードルを思いついた時の話です。チキンラーメンを外国に売りに行った際に、商談相手がチキンラーメンを二つ折りにして容器に入れて、お湯を注いでかき混ぜてスナックのような感じで食べていた。それを見てカップヌードルのヒントが浮かんだわけです。容器は紙にして持ち歩くことができ、お湯を注いだらすぐに食べられる・・・それをずっと考えて、考え抜いていたら、飛行機に乗った時に容器を見てはっと閃いた。更に魚屋さんの前を歩いた時、発砲スチロールの箱が目に入った。この組み合わせが一緒になって、カップヌードルが生まれたそうです。

ですからはっと閃くということは、考えて考えて、考え抜いていないと思いつかない。世紀の発明も散歩中に閃いたという話がありますが、散歩をすれば誰もが閃くわけではありません。“この研究を何とかしたい”と思い続けているから、歩いている最中でも頭の中はそれでパンパンになって、草臥れきっている時にポトンと一つ新しい刺激が入ったことによって閃いたのだと思います。ノーベル賞の場合も、何とかこの研究を成功させたいと思い続けて、時々頭が空白になるのだと思います。空白になった時に、はっと閃きが出てくる。必死に研究をしている時ではなく、頭をからっぽにしている時に閃くようです。

ですから我々が何かしようと思ったら、思い続けること、そして情報を取り続けることだと思っています。

時事評論 一領土奪還の動き一

時事評論の際、昨年、一昨年は三つのキーワードを申し上げていました。一つ目は民主党の打つ無様な手を見る。二つ目は国債の動向。三番目は自然災害。新聞やテレビを見る時は、この三つの視点で見て下さいと申し上げていました。政権交代してからは、自民党の打つ手に関しては是々非々で見る必要があると言っております。

そう思っていると、情報が色々なところから入ります。例えば、日銀が追加緩和をしましたが、これはアメリカの命令によるものだという資料を戴きました。アメリカの命令を日本政府は受けざるを得なかった。アメリカが量的緩和の終了宣言をした二日後に、日本は追加の金融緩和をした。黒田日銀総裁が勇断をもってやったという評価が広がったけれ

ども、後ろでアメリカがやらせたのだと書いてありました。たまたま先週の東京フォーラムで、中国から帰国した大野参与が同じような情報を話してくれました。

先日お会いした木内孝顧問は、「日本にいと日本の動向は伝わらない」と言っておられました。日本に来ている外国人記者は最近、日本を出て香港やシンガポールに行き、日本の動向をチェックするようになっている。なぜなら日本にいと日本の情報が入らないからだそうです。

私は日本の情報を得るのに、一所懸命新聞やテレビを眺めます。例えば、周近平首席と安倍首相が仏頂面で握手している場面がありました。私は福島に行っておりまして、地元の福島新聞を見ましたら、裏でそういう演出をするという合意が出来ていたのだと小さく出ていました。なるほどそうだろうなと思いました。

同時に、日本近海に赤サンゴを取りに来る中国の密漁船に対して、中国政府は密漁者を逮捕し相当な罰をかけるという情報が流れました。日本側も密漁船を逮捕して罰金をかけるという所までは進みました。しかしその中にあるものは何か……。ここからは推測になりますが、ネットや一部の週刊誌や外国の報道を総合して取ればよいと思いますが、私はもう戦闘状態に入っていたのだと思いました。今年の初めに私は「今年は日本が戦争に巻き込まれる危険性が高まっている、国債が破裂する危険性も高まっている」と申しました。どこまで本当か分かりませんが、密漁船がサンゴを盗っている上空から、大型のヘリからロープを垂らし特殊部隊が降りてきて、軽機関銃で刃物を持って抵抗する密漁者を制圧し、逮捕して日本に連れてきたという情報があります。今までは警告や水をかけて制圧するというをやっていたけれども、それは終わった。武器を持って、日本の武装特別部隊が外国の船舶を制圧をしている。ということは、既に戦闘状態に入っているのです。戦闘状態に入ったということが表面化して、誰かが死んだりすれば、それをきっかけにして戦争に突入する、一触即発の状況が今も続いていると思っています。ですから12月末まで息が抜けない状況です。選挙をしている最中に、下手をすると戦争が始まる可能性は高まったと思っています。

これは色々な知識・情報を取り入れて、融合させて導き出しています。なぜそう言えるかということ、時代の潮流があるからです。時代の潮流は今、間違いなく領土奪還です。イスラム国はオスマントルコ帝国の栄華を再び！と願って、女性や子供達を誘拐して人身売買をし、油田を強奪し銀行を襲い、その潤沢な資金で若者を集めて、どんどん膨らんでいきます。彼らは領土奪還という大義名分があると信じているから非常に危ない。ロシアも韓国も同じです。特に中国は中華帝国を夢見て、2000年前は我が領土だったから奪還し

たい、と主張しています。そんなことを言ったら、あちらこちらで領土奪還がありますね。

キーワードは領土奪還です。自国の昔持っていた領土を取り返したいという大義名分が明確にあるから、その国の国民は支持するわけです。そういう状況を踏まえて、安倍さんは焦燥感に駆られて、日本も戦争が出来る状態にしておきたいと思っているから、必死になって選挙もしたいのでしょう。消費税を先送りすると自分が引き摺り下ろされる危険性が非常に高いから、うるさい事をいう連中を選挙で落としてしまいたい、という思惑もかなりあると思います。ですから今回の選挙は、唐突に出て来たようで、実は根回しして自分の総理としてのポストを確保しつつ、政敵を落選させたり、もしも万が一うまくいけば公明党も切れるという、かなり大きな博打を始めたと感じます。それもこれも全部、世界の流れが戦争に向かって動いている。下手をすると日本は危ないという強烈的な危機感があるのでやっているのだと私は感じます。

大きな時代の潮流からすると、西洋文明はもう凋落の一途で、これから東洋文明が中心になる。1000年～2000年単位でそういう動きが起きています。ですから今の時代は、国が滅ぶ、或いは国が新しく生まれるのも当たり前。領土奪還の動きも、そういう大きな動きの中で当たり前なのです。日本の国も、平和が続くと次は戦争、戦争が続くと次は平和という順番で眺めていくと、間違いなく次は戦争の時代に入っていきます。

お時間が参りました。今朝は道場で山崎先生に護身術を教えて戴きました。ぜひ皆さんも自分の身を守る術を身に付けられることをお勧めします。